

学 信

芸術学科 学科通信 Vol.50 FEB 2025

芸術学科 学科通信

特集

ファッションショーFar-outを開催いたしました。

北翔舞台芸術『お婿さんの学校』を上演いたしました。



羽野歩 『世代を超えて利用するシェア別荘』



樋口真奈美 『時を描く色』



北翔大学 2024年度 第5回 オープンキャンパス



3月15日(土)

3月15日(土) 教育・芸術・心理
3月16日(日) スポーツ・こども

総合型選抜制度

第四期
インターネットエントリー
受付中! 2月27日(水)まで

北翔大学 教育文化学部 芸術学科

〒069-8511 江別市文京台 23 番地

芸術学科 (美術、メディアデザイン、インテリア建築、服飾美術、舞台芸術の5分野)

※教育文化学部には教育学科、芸術学科、心理カウンセリング学科の3学科があります

第22回 北翔大学 教育文化学部
芸術学科 卒業制作展

2月8日(土)~2月16日(日)

北翔大学 札幌円山キャンパス

芸術学科の美術・メディアデザイン・インテリア建築・
服飾美術・舞台芸術の5分野すべての4年生が、これまで
学んできた集大成の作品を発表しました。

『えべつ未来づくり学生コンペティション』
で未来づくり大賞(最優秀賞)を受賞

2月14日(金)

江別市や江別市内4大学、江別商工会議所、北海道中小企業家
同友会札幌支部江別地区会などが主催する『えべつ未来づくり
学生コンペティション』において、芸術学科の学生が提案した
データ収集の際に市民巻き込み型でWeb上に再現された江別の
3D空間にアート作品を自由に配置できるプロジェクト『デジタル
江別』が未来づくり大賞(最優秀賞)を受賞しました。

(写真は、去る2月14日に酪農大学で行われたコンペティションで
表彰される芸術学科2年の田島遼真くん、松澤陸翔くん、千里匠くん)



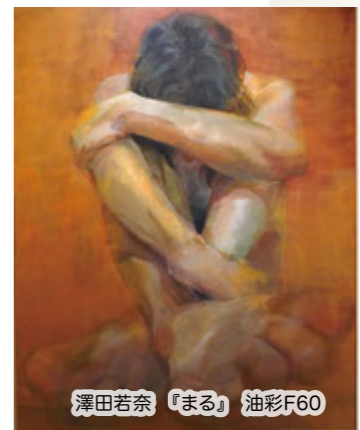
北翔大学 芸術学科美術作品展

2月18日(火)から 2月23日(日)

北翔大学札幌円山キャンパス
芸術学科で美術を学んでいる
全学年の学生の作品70点あま
りを発表しました。



坂本円羅 『蓮』 木



澤田若奈 『まる』 油彩F60



田村ひより 『無題』 油彩F12

www.hokusho-u.ac.jp

www.hokusho-art.com

@X

Instagram

youtube

ファッションショー「Farrou」を開催いたしました。



12月21日(土) 北翔大学芸術学科第57回学外発表会ファッションショーを開催いたしました。服飾美術分野の学生が中心となって、約90点の作品を紹介したファッションショーです。テーマとした「Farrou」という言葉は「型破りな」とか「斬新な」という意味です。これまでのファッションショーの型に囚われず、自由に表現するファッションショーを作り上げられたと思います。また翌日には市立札幌豊平高等学校、北海道江別高等学校との高連携ファッションショーも行いました。

【ショーと、4年間芸術学科で学んだことを振り返って 田邊拓夢】

率直な感想として、この4年間はとても濃い期間でした。1年生の時に、初めてミシンを触ったことから始まり、ファッションデザイン、パターン化、縫製技術など何もかもが初めての中、先生方が学生一人一人に親身に対応し、丁寧に教えてくれました。

本学のファッションショーは、他分野の学生達とも関わりながら学生が自分たちで企画を考え、運営し、舞台設置を行います。

僕がこの4年間学外ファッションショーで一番こだわった所はお客様の視線です。お客様にどれだけインパクトを与えられるかがとても重要です。せつかく興味を持ってご来場いただいている訳ですから、作品を着用して歩くモデルのウオーキングの構成はお客様が飽きないよう心掛けて考えました。ファッションショーでは、モデルの歩き方もとても大事です。ただ歩くだけではだらしなく見えるので、姿勢、歩幅の間隔、目線などにもこだわりました。

今年の卒業制作では、自分自身の過去の出来事、4年生として4月時点での当時の考えを最大限に出し作品として魅せてい

きました。一人で5体作ると言う事、自分の考えで一つのテーマを発表する事の責任感も大きく、これまで以上にデザイン、制作に時間をかけました。

僕だけではなく、他の同級生も自分の色に染め自分自身が最大限に魅せられるテーマを作って行きました。皆系統が全然違うので本当に唯一無二が似合う同期組などと思います。6人の個性が存分に発揮されたファッションショーにできました。

今後、最終目標であるデザイナーとして少しずつですが、アパレル関連会社の経験を積み着実に取り組んでいきたいと考えています。

最後に、後輩たちに伝えたい事があります。それは諦めない大事さです。僕は1年生の後期の頃は、授業もサボったりするなど、少々堕落した生活を送っており、当時の先生達に迷惑を掛けてしまいました。当時はコロナウイルスも流行っていたため前期はほぼ学校に行かなく家で遠隔授業を受けることや休講になる授業が多く、逆に夏休み中は、ほぼ全日使って制作という日々でした。大学生でもっと遊べるのかと思っていた僕は、服飾を学ぶとは、こんなに大変な



な役です。母のような温かさのある感じも似ています。過去の作品でも声や演技について好評をいただくことはありませんでしたが、似たような役しか演じられないのかと、自信を無くすこともありました。しかし、今回の役を通してその気持ちも払拭することができたと思っています。自身の演技を上げさせてくれた役だったと実感しています。

また、今回の公演で忘れられないのが、劇団イナダ組の主催であるイナダ先生との関わりです。今回は縁あってイナダ先生に演出していただき、私が持つ癖などを細かく指導してもらいました。癖がなくなってくると、みるみる自分の演技が良くなっていくことを実感して楽しかったです。実際に劇団を主催しているプロの立場から、リアルな制作や稽古についてのお話も聞けて、良い経験でしたし、どう演じるかも含めて、さらにどうしたらお客さんをより楽しませられるかなど、イナダ先生に演出していただきながらギリギリまで自分の演技を追求出来ました。

同期の役者たちからも学ぶことは多かったです。澤田すみれは、笑いを誘う動きや表情が多く、自分がどう見えているのか客観視できている点に



のかと実感し、同時に、もういいかなあと諦めかけていました。ですが、初めて学外ファッションショーに参加した時に、当時の3年生、4年生の作品がとても恰好良く、衝撃を受けました。当時ははつきりとした目標なんて無かったのですが、先輩たちの作品を目の当たりにした時に初めて目標ができ、そこからようやく制作にも熱が入りました。今でも憧れているあの先



輩の様になりたいと、そしていつかは追いついて歴代で一番のファッションショーを作ると言う最終目標が出来ました。僕が変わった転機でもあり、原点です。当時憧れていた先輩達を見て、僕もあんなりたいなという反面「デザイン、縫製技術、ウオーキング構成も全部凄過ぎて到底敵わない、あの様なスゴい先輩にはなれないだろう」と思っていました。ですが、今では先輩たちへも、口で伝えるのではなく、作品を形として魅せることが出来たのではないかと思えるような作品が作れましたし、かつていい先輩になれたかなと思っています。

今後とも、北翔の服飾美術分野は、僕が実感した通り凄いのだぞ、という自負を持って後輩達に頑張ってもらいたいと思っています。



北翔舞台芸術 年自定期公演 Vol.37 『お婿さんの学校』 1月24日・1月25日 作：モリエール 演出：イナダヒロシ

「公演を振り返って 境谷明美」

今回はスガナレルを演じました。スガナレルは40代の男性。横暴で自己中心的な役柄です。自分とは年齢や性別が大きく異なり、セリフの量、移動の多さなど難しい点が多いため、役作りに参考にして、歩き方や声を研究しましたし、少々現実離れしている性格でしたので、アニメやドラマを参考にしつつ、表情や台詞回しを練習しました。

最大の課題は、体力のなさでした。スガナレルは主役で、最も舞台上に出ています。横暴な役を演じるために声を張り上げて長台詞を言い、大袈裟に歩いたり走ったりしたかと思えば、また台詞を言うことの繰り返しでした。舞台裏に居る時間はほとんどなく、とにかく体力を消耗する役でした。しかし、頑張った甲斐もあって、お客さんからの評判が良く、とても嬉しかったです。やりがいがあったと思います。私が過去に出演した『箱の中の4人』や、『ベルナルダ・アルバの家』では、実年齢よりも上の役を演じました。これらで演じた

役は似ており、落ち着いた女性で、みんなよりも一段上で周りを見ているよう



感じします。大橋咲子は、可愛らしくずる賢いキャラクター作りが良く、細かい動きで舞台上に深みが出ています。坂時のどかは、セリフの少ない役でありながらも上手く役を捉え、自分なりに面白い演技を加えていて驚かされました。裏方のみんなとも、息を合わせながらやりました。少しの休憩の合間に打ち合わせをしたり、楽屋で演技を見て貰ったり、全員で舞台を作りあげることが出来たと思います。また、1年生とは少しの絡みの中でどう個性を出していくか、どうやってその役を作っていくか、など考える機会が多く一緒に演じられて楽しかったです。みんなには、感謝や尊敬の気持ちでいっぱいです。

今後としては、もっといろいろな役を演じたり、たくさんの舞台を見に行ったり、演技の幅を広げていきたいです。今回の公演に向けて頑張りたいと思います！